

政策整理番号 16

評価シート(B)

対象年度	H16	作成部課室	産業経済部産業政策推進室	関係部課室	産業経済部食産業・商業振興課、農業振興課、農産園芸課、観光課
------	-----	-------	--------------	-------	--------------------------------

政策番号	2-5-1	政策名	産業間の連携と地域資源の活用による産業活力の創出
------	-------	-----	--------------------------

施策番号	2	施策名	農林水産業や観光産業などの産業間の連携
------	---	-----	---------------------

A - 3 - 1 施策の有効性:規則 § 6 3号

有効
概ね有効
課題有

【政策評価指標達成状況から】有効
 ・指標名:地域資源活用事業創出件数 達成度 A
 ・(達成状況の背景)関連事業の着実な執行により、新商品の開発や交流施設の設置などは順調に伸びている。
 ・(達成度から見た有効性)事業活用創出件数は、平成16年度の目標を大きく上回り、平成22年度の目標値に近づいている。

【政策満足度から】概ね有効
 ・政策満足度は、過去4回ともに59または60で推移しており、大きな変化はなく、「ある程度満足」な状況が続いている。

【社会経済情勢を示すデータの推移から】有効
 ・農畜産物、木材、水産物の輸入拡大や国内の産地間競争の激化などにより、生産額の低下とこれに伴う所得額の減少や、担い手の高齢化や後継者不足が深刻化するなど、持続的な経営を維持することが困難な経営体も増加しつつある中で、地域資源活用事業創出件数の増加は、地域産業の振興に寄与するものであり、効果が認められる。

【総括】
 ・政策評価指標達成度は順調であり、政策満足度も「ある程度満足」な状況を示しており、施策の有効性が認められる。

施策を構成する事業の事業番号と種別

事業番号	種別	事業名	事業番号	種別	事業名
1	重	みやぎ「海・山・大地の恵み」総合事業(地域産業振興事業)	6		
2	主	みやぎ「海・山・大地の恵み」総合事業(地域産業活性化支援事業)	7		
3	主	コミュニティビジネス経営体育成事業	8		
4	主	山の幸振興総合対策事業	9		
5	主	地域資源観光化事業〔再掲〕	10		

主:宮城県総合計画第 期実施計画に掲載されている「主要事業」 重:重点事業のうち主要事業以外の事業

B - 1 施策実現にむけた県関与の適切性と事業群設定の妥当性:規則 § 6 1号, 4号

適切
概ね適切
課題有

【国,市町村,民間団体との役割分担】適切
 ・(県)県は、各事業を通じ、市町村や民間団体への活動支援、試験研究機関による新品種開発等を行う。
 ・(市町村)市町村は、地域産業活性化に資する事業実施の促進、産地改革の誘導等を行う。
 ・(民間団体)民間団体は、地域産業活性化に資する事業の実施、新品種の栽培技術実証等を行う。
 ・本施策に係る事業群は、上記役割分担に沿って設定・実施されており、県の関与は適切である。

【施策目的を踏まえた事業か】適切
 ・本県が有する農林水産物などの多彩な地域資源を活用し、生産から加工、流通、販売までの地域の様々な産業の連携や融合交流を促進し、地域が一体となった産業活動の展開により、産業活力の創出を図ることを目的としており、すべて施策目的を実現するために必要な事業である。

【事業間で重複や矛盾がないか】適切
 ・目的、対象者に応じ事業が適正に設定されており、重複や目的が矛盾する事業はない。

【社会経済情勢に適応した事業か】適切
 ・輸入の拡大や国内の産地間競争の激化などにより、地域産業は、一層、厳しい環境にあり、地域の特性を活かして戦略的に事業を展開し、地域産業の活性化を図る必要がある。

【施策重視度と満足度のかい離が大きいか】(事業の必要性) 適切
 ・かい離は、18から15へと改善しており、引き続き、施策満足度の増加を目指し、各事業を推進する必要がある。

【総括】
 ・施策目的、県の役割分担、事業体系、社会経済情勢、県民満足度調査の推移から判断して、本施策の事業設定は「適切」と判断する。

施策番号	2	施策名	農林水産業や観光産業などの産業間の連携
------	---	-----	---------------------

B - 2 事業群の有効性:規則 § 6 2号

有効 概ね有効 課題有

<p>【施策満足度から】有効 ・施策満足度は、少しずつ増加しており、有効と判定する。</p> <p>【政策評価指標達成状況から】有効 「政策評価指標分析カード(4)ア」から抜粋 ・新商品の開発や交流施設の設置などが順調に伸びており、政策評価指標は、既に平成22年の目標値に近づいている。 ・施策満足度が必ずしも高くないことから、今後は、より訴求力のある商品開発や適切な情報発信等を行うことにより、満足度の向上に努める。</p> <p>【社会経済情勢を示すデータの推移から】有効 ・農畜産物、木材、水産物の輸入拡大や国内の産地間競争の激化などにより、生産量や所得が減少するとともに、担い手の高齢化や後継者不足が深刻化するなど、持続的な経営を維持することが困難な経営体も増加しつつある中で、地域における農林水産業や観光産業などの連携により、地域特有の資源の付加価値を高めるなどの、地域特性を生かした産業振興の展開を促進する。</p> <p>【業績指標推移から】有効 ・みやぎ「海・山・大地の恵み」総合事業は新規事業として実施、コミュニティビジネス経営体育成事業、山の幸振興総合対策事業、地域資源観光化事業とともに継続的に実施している。</p> <p>【成果指標推移から】有効 ・新商品開発・販路開拓数、モデル経営対数、生しいたけ生産量、観光客入込数ともに安定的に推移している。</p>
<p>【総括】 ・業績指標、成果指標が施策目的と同方向に推移しており、施策満足度は少しずつ高くなっている。また、政策評価指標は、平成16年度の目標値を大幅に上回っている。 ・政策評価指標、成果指標で一定の施策の効果が認められることから事業群は「有効」と判定する。</p>

B - 3 事業群の効率性:規則 § 6 3号

効率的 概ね効率的 課題有

<p>【施策満足度 業績指標・成果指標】効率的 ・施策満足度は業績指標・成果指標と同方向に推移しており、効率的と判定する。</p> <p>【政策評価指標達成度 業績指標・成果指標】効率的 ・政策評価指標は、平成16年度目標を大きく上回り、業績指標・成果指標の推移以上の推移を示しており、効率的と判定する。</p> <p>【社会経済情勢データ 業績指標・成果指標】効率的 ・業績指標・成果指標ともに安定的に推移している一方、地域産業を取り巻く環境は一層厳しさを増しており、重点的な事業の実施が必要である。</p> <p>【事業費に対する業績指標の割合(効率性指標)が適切か】効率的 ・事業費、業績指標ともに安定的に推移しており、効率的と判定する。</p>
<p>【総括】 ・満足度、政策評価指標等各種データは、施策の目指すべき方向に進んでおり、「効率的」と判定する。</p>

B 施策評価(総括):規則 § 6

適切 概ね適切 課題有

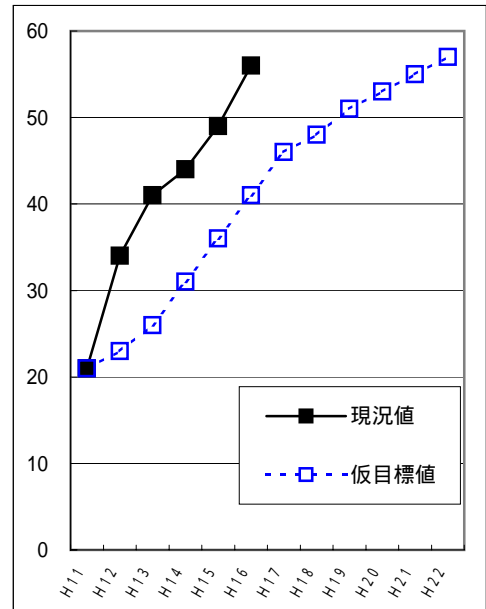
<p>・事業群の設定は、「適切」と判断し、事業群の有効性、事業群の効率性も「適切」と判定できる。 ・地域産業を取り巻く環境は、一層厳しい状況にあることから、引き続き、農林水産業や観光産業などの連携により、地域特有の資源の付加価値を高めるなど、地域特性を生かした産業振興の展開を図る必要がある。</p>

対象年度	H16	作成部課室	産業経済部産業政策推進室	関係部課室	産業経済部食産業・商業振興課, 農業振興課, 農産園芸課, 観光課
政策番号	2-5-1	政策名	産業間の連携と地域資源の活用による産業活力の創出		
施策番号	2	施策名	農林水産業や観光産業などの産業間の連携		

(1) 政策評価指標の推移

政策評価指標名		単位						
地域資源活用事業創出件数		件						
目標値	難易度	H17	46	H22	57			
評価年	初期値	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
測定年	H11	H11	H12	H13	H14	H15	H16	
現況値 (達成度判定値)	21	21	34	41	44	49	56	
仮目標値		21	23	26	31	36	41	46
達成度		...	A	A	A	A	A	

政策評価指標値の推移(グラフ)



難易度: (トレンド型目標 実現が可能), (中間型目標 実現が困難), (チャレンジ型目標 実現がかなり困難)

(2) 指標の選定理由

・地域の農林水産物, 観光, 文化など, その有する資源の活用により, 新たな産品や観光事業の創出を図っていくことが地域を支える産業の新たな展開を示す目安となると考え当該指標を選定した。

(3) 施策満足度の推移

施策満足度 (単位:点)	年度	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
	施策重視度 A		-		72	73	75					
施策満足度 B		-		54	55	60						
かい離 A-B		-		18	18	15						

(4) 政策評価指標の妥当性分析

ア 達成状況の背景(未達成の場合はその理由等)・今後の見通し	イ 達成度と施策満足度の推移の相関
達成度:A ・関連事業の着実な執行により, 新商品の開発や交流施設の設置などは順調に伸びており, すでに平成22年の目標値に近づいている。 ・目標の達成は確実であるが, 施策満足度が必ずしも高くないことから, 今後は, より訴求力のある商品開発や適切な情報発信等により, 満足度の向上に努める。	判定:... ・政策評価指標「地域資源活用事業創出件数」は, 平成16年度の目標値を大幅に上回り, 平成22年(最終年次)の目標値に近づいている。 ・施策満足度は, 少しずつ高くなっているが, まだ十分とは言えない。 ・この数値だけから両者の相関を判定することはできない。 相関の判定: (正の相関)、×(負の相関)、...(判定不能 満足度あるいは達成度の変動がない, または達成度が判定不能のため相関の検証ができない場合等)

(5) 政策評価指標の妥当性の検証(総括)

存続

要検討

【施策の有効性を評価する上で適切な指標か】
 ・政策評価指標(地域資源活用事業創出件数)の順調な伸びに対して, 施策満足度は必ずしも高くない状況にある。
 ・今後の課題として, 開発された新商品や交流施設, 観光資源等の情報がより一層県民に広報すること及び, 訴求力のある商品づくりを支援することで, 両者をリンクさせることを目指す必要があるものと考ええる。

施策・事業展開シート(C)

政策整理番号 16

対象年度	H16	作成部課室	産業経済部産業政策推進室	関係部課室	産業経済部食産業・商業振興課、農業振興課、農産園芸課、観光課
政策番号	2-5-1	政策名	産業間の連携と地域資源の活用による産業活力の創出		
施策番号	2	施策名	農林水産業や観光産業などの産業間の連携		

C - 1 評価結果から抽出される課題と対応策

【政策評価】施策群設定の妥当性, 施策群の有効性
 ・政策評価指標(地域資源活用事業創出件数)の目標値を達成するため, 引き続き重点的に実施する必要がある。

【施策評価】事業群設定の妥当性, 事業群の有効性, 効率性
 ・地域産業を担う市町村, 農林漁業者, 中小企業, 各事業者が組織する団体等それぞれの主体に対し, 引き続き重点的に支援する必要がある。

【上記対応により, 当該事業を縮小・中止した場合の影響】
 該当なし

C - 2 施策・事業の方向性

施策の次年度(H18年度)の方向性とその説明

方向性	拡大	維持	縮小	その他
-----	----	----	----	-----

【見直しの視点とその理由】
 該当なし

【次年度の方向性】
 ・地域の産業活動の活性化や産業の創出を図るため, 事業者間の連携を促進し, 農林水産, 観光等地域資源を活かした多様な取り組みによる地域振興を図る。

主要事業・重点事業の次年度(H18年度)の方向性とその説明

事業番号	種別	事業名 [H16決算見込額]	方向性	方向性に関する説明
1	重	みやぎ「海・山・大地の恵み」総合事業(地域産業振興事業)[54,326千円](ネーミング改革により, H17から「地域産業振興事業」に名称変更)	拡大	地域特性や地域資源を活かし, 地域の中小企業や農林水産業者と連携を図り, 市町村と協力しながら, 地方振興事務所が主体となり, 引き続き, 地域の産業活動の活性化や産業の創出を図る。
2	主	みやぎ「海・山・大地の恵み」総合事業(地域産業活性化支援事業)[19,203千円]	維持	食関連産業を中心に, 異業種間連携等による新たな地域産品の開発や販路開拓が加速されつつある。地域産業活性化のため引き続き実施する。
3	主	コミュニティビジネス経営体育成事業[1,203千円](H17より組替新規)	拡大	前事業により, 地域のコミュニティづくりやビジネスの芽づくりに成果があった。今後は, モデル地区を9地区に拡大し, 普及啓発, 推進体制整備, ビジネスを担う経営体育成等に取り組む。
4	主	山の幸振興総合対策事業[12,593千円]	維持	生産者が効率的な経営に転換できるよう施策誘導を図る。
5	主	地域資源観光化事業[944千円]	維持	宮城の観光情報・観光資源をマスコミ等を利用して広く発信していくものであり, 継続的に実施するとともに, 商品化する可能性のある相手方に直接発信するなど, 多様な取り組みを行う必要がある。